

## ・印旛沼の開発 (49, 50ページ)

利根川が銚子へ流れるようになってから、利根川の水が印旛沼に流れ込み、大雨のたびに大きな被害を受けるようになりました。

このため、昭和の大きな戦争のあと、洪水を防ぎ、食料の生産のため、印旛沼の干拓工事を行いました。さらに、印旛沼開発事業に引き継がれ、印旛沼の水は農業用水、工業用水、生活用水として利用されることになりました。

印旛沼は千葉県にとって、とても大切な水源となっています。



1945(昭和20)年ごろの洪水のようす  
(印西市(旧印旛村))

水につかった稲を船を出して刈り取っているところ



空からみた印旛沼

• 房総導水路 (53ページ)

房総導水路は、利根川から水を引くことにより、水の足りなかった九十九里、夷隅、安房地域の生活用水や千葉から富津にかけて京葉臨海工業地帯の大半の区域に工業用水を供給するために計画されました。

現在では、新しい水路や東金ダム、長柄ダムなどが完成し、生活用水や工業用水として使われています。



とうがね とうがね  
東金ダム (東金市)



ながら ながら  
長柄ダム (長柄町)



ぼう そう どう すい ろ ぜんたい ず  
房総導水路の全体図

※絵はイメージです。

・北千葉導水路 (64ページ)

北千葉導水路には、3つの役割があります。

1つ目は、利根川の水を江戸川に送り、生活用水や工業用水として使われます。

2つ目は、手賀川と坂川に排水ポンプを設置し、洪水被害から人々を守ります。

3つ目は、利根川の水を手賀沼に入れて、沼の水をきれいにします。このおかげで、手賀沼は以前よりきれいになってきています。



第一機場



手賀川浄化施設

北千葉導水路の全体図

